

OECC カーボン・オフセット報告

2010年12月

カーボン・オフセットとは、自己活動の温室効果ガス排出量を算定、見える化し、どうしても削減できない量の全部または一部を、違う場所での排出削減・吸収量でオフセット（埋め合わせ）することを言います。

OECCは、2010年6月に開催した設立20周年記念行事、ならびに同年10月、生物多様性条約COP10において併催された生物多様性フェア出展に伴い発生した温室効果ガスについて、カーボン・オフセットすることとしていました。

この度、両イベントの事前に定めた活動範囲内の温室効果ガス排出量算定を終え、諸塚村森林炭素吸収量活動プロジェクトから、

(株)CACを通じて、クレジット2トン調達し、CO₂を償却しました。



写真提供 (株)CAC

J-VERクレジット調達先

- 諸塚村森林炭素吸収量活動プロジェクト

http://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp/O9mu ra/O9_09_carbonoffset.htm

＝担当から一言＝

昨夏四国を訪れました。「山が死んでいる。手入れがされず、光が入らないから下草が生えない。真っ暗で、昆虫も、鳥も、動物もない。音がしない。」案内をしてくれた友人がもらしていました。

OECCはJ-COF、4CJ、CO-Netと、カーボンオフセット普及に向けた先導的役割を果たしてきました。この度のイベント開催オフセットに際し、市井の担当としてオフセットチームから指導を受け、対象活動の範囲設定、算出、プロバイダー選定、調達先選定等を行いました。最初は『何をしたらいいのか、どう選べばいいのか』渡された複数のガイドラインを手に大いに戸惑いました。現在は、一担当の立場から「やってみよう、オフセット」なる手引書が完成し、わかりやすく手順が示されています。(あの頃に欲しかったです。)

実はオフセットのための調達クレジットの種類は、CER、AAU、J-VER等複数あります。今回選定したJ-VERクレジットは、他のクレジットより割高ですが、国内のCO₂排出削減・吸収プロジェクトに役立てられるという特徴があります。大げさかもしれませんが、日本の森を守りたい＝地方の適正な森林管理を応援できる制度です。(対象プロジェクトには森林吸収系と排出削減系があります。)

写真はプロバイダー担当者が実際に諸塚村に赴き撮影。差し込む光と下草についての説明を受け、冒頭の友人の言葉を思い出し、作業労苦とオフセットです。

カーボン・オフセットに関する詳細はJ-COFホームページをご参照ください。URL: <http://www.j-cof.org/>

皆様もぜひカーボン・オフセットを始めてみてはいかがでしょうか。



設立20周年記念行事

生物多様性フェア出展

オフセットの対象となる活動

- 参加者及び事務局員の会議場移動に伴う交通機関利用
- 会議場の電力利用

オフセットの対象となる活動

- ブース運営に携わる関係者及び事務局員の移動に伴う交通機関利用

*イベント会場の電力利用については主催者がオフセットを実施しています。

CO ₂ 排出源	CO ₂ 排出量
交通機関利用 参加者	1069kgCO ₂
事務局	48kgCO ₂
会議場利用	216kgCO ₂
排出量合計	1333kgCO ₂

CO ₂ 排出源	CO ₂ 排出量
交通機関利用 関係者	499kgCO ₂
事務局	53kgCO ₂
排出量合計	552kgCO ₂

両イベントのCO₂総排出量 1885kgCO₂